2　地理歴史・公民

学校番号	１０１０

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	詳説日本史　（山川出版社）						
副教材等	写真資料館　日本史のアーカイブ　（とうほう）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・日本史学習を通して、地域それぞれがはぐくんできた歴史の多様性と過去の歴史に学び、これからのあり方を考える。

2　学習の到達目標

・教科書等の文字資料、地図、映像・写真資料などから、歴史的思考力を培う。
・わが国の歴史の展開を諸資料に基づき、現代の諸事象・諸問題と関連付けて総合的に考察する。
・現代の背景となった歴史学習をもとに、これからの日本人としてあり方を考えることができる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史的事象と現在との結び付きを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意味に気付き、関心をもって主体的に学習に取り組めているか。	日本の歴史の展開から課題を見出し、歴史的に形成された諸課題について、さまざまな理解・立場があることをふまえて、公正に判断しているか。	日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、得られた資料を効果的に活用して歴史を探求する学び方を身に付けているか。	基本的な歴史事象に関する知識を身に付け、各時代の特色を理解しているか。
評価方法	出席状況 授業態度 宿題等の提出状況	定期考査 授業発言の記録 ノート	定期考査 授業レポート ノート	定期考査
	〔主題学習〕 振り返りシート	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 内容のまとまり

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

月	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4月～9月	第5章 武家社会の成長	・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・室町文化 ・戦国大名の登場	○ ○ ○ ○	◎ ○ ○ ○	○ ◎ ◎ ○	◎ ○ ◎	a:倭寇や堺の自治都市など、庶民勢力の伸張を意欲的に追求している。 b:建武の新政がなぜ崩壊し武家政権が誕生したのかについて、自らの言葉で適切に表現できている。 c:書院造の建築様式など、現代日本の源流につながる要素が見られることを適切に読み取っている。 d:あらたな幕府の創設と実質的な崩壊、地方勢力の自立についての流れに関する基本的な知識を身につけている。	出席状況 定期考査 ノートなど提出物
	第6章 幕藩体制の確立	・織豊政権 ・桃山文化 ・幕藩体制の成立 ・幕藩社会の構造	○ ◎ ○ ○	○ ○ ○ ◎	○ ◎ ○ ○	◎ ○ ◎	a:桃山文化などこの時代について関心を持ち、特色について意欲的に課題を追求しようとしている。 b:大名の統制の意義について考察し、自らの言葉で表現できている。 c:刀狩など諸法令の意図や内容を資料をから適切に読み取っている。 d:織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の天下統一の過程について理解し、基本的な知識を身につけている。	出席状況 定期考査 ノートなど提出物
	第7章 幕藩体制の展開	・幕政の安定 ・経済の発展 ・元禄文化	○ ○	◎ ○ ○	○ ○ ○	◎ ◎	a:武断政治から文治政治への転換と武士の役割の変化について意欲的に課題を追究しようとしている。 b:武断政治から文治政治に転換した背景を考察し、徳川綱吉の政治と文化について、みずからの言葉で表現できている。 c:大坂蔵屋敷・江戸日本橋などの経済発展をえがいた資料や元禄文化の絵画資料から情報を適切に読み取っている。 d:伝統文化・芸能につながる元禄文化について基本的な知識を身につけている。	出席状況 定期考査 ノートなど提出物
10月～2月	第8章 幕藩体制の動揺	・幕政の改革 ・宝暦・天明期の文化 ・幕府の衰退と近代への道 ・化政文化	◎ ○ ○ ○	○ ◎ ○ ◎	○ ○ ◎ ○	◎ ○ ○	a:幕政の改革がなぜ必要であったのか、なぜ行われたのかについて関心を持ち、課題を追究しようとしている。 b:江戸時代それぞれの文化の特色・違いについて、自らの言葉で説明できている。 c:飢饉による人口減少や一揆の発生状況のグラフなどと幕政改革が行なわれた時期に相関性があることを読み取っている。 d:享保の改革・田沼政治・寛政の改革のそれぞれの特色を理解するとともに、そこで進められた施策に関する基本的な知識を身に付けている。	出席状況 定期考査 ノートなど提出物

	第9章　近代国家の成立	・開国と幕末の動乱 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立と日清戦争 ・日露戦争と国際関係 ・近代産業の発展 ・近代文化の発達	◎ ◎ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ◎ 	○ ○ ◎ ◎ ○ ○	◎ ◎ ○ ○ ○ ◎	a:討幕運動と立憲国家の成立に対する関心と課題意識を高めようとしている。 b:開国後の混乱や維新後の我が国の近代化の推進過程を国際関係と関連させ、過程や結果を適切に表現できている。 c:幕府や明治政府の外交・対外関係を地図資料などから適切に読み取っている。 d:開国後の文化・技術の流入と、維新後の近代化などの基本的な事柄を、欧米の文化・思想・政治の影響や国際関係と関連付けて理解できる。	出席状況 定期考査 ワークシート ノートなど提出物
	第10章　二つの世界大戦とアジア	・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 ・市民生活の変容と大衆文化 ・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦	◎ ○ ◎ ○ ○ ○	 ◎ ○ ◎ ○ ○	 ○ ◎ ○ ○	○ ◎ ○ ◎ ◎ ○	a:国際関係における日本の立場や、戦間期・戦中期の文化の特色について関心と課題意識を高めようとしている。 b:第一次大戦や世界恐慌が日本に与えた影響を考察し、中国進出の動きや日本経済の発展について自らの言葉で適切に表現している。 c:第一次世界大戦後の産業構造の変化やデモクラシー思想の広がりについての諸資料から特色を適切に読み取っている。 d:護憲運動などの民主政治の高まりと、恐慌後の軍国主義的政治や外交に関する基本的な知識を身に付けている。	出席状況 定期考査 ワークシート ノートなど提出物
10月～2月	第11～13章　戦後のの日本	・占領と改革 ・冷戦の開始と講和 ・55年体制 ・経済復興から高度成長へ ・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本社会の動揺	○ ○ ◎ ○ ◎	◎ ◎ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ◎ ◎ ◎	○ ◎ ◎ ○ ○ ○	a:55 年体制の成立と崩壊に関心をもち、1990 年代以降の世界と日本について意欲的に課題を追究しようとしている。 b:我が国の再出発や、その後の政治や対外関係の推移から課題を見いだし、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大と関連付けて考察・表現できる。 c:経済の高度成長期から安定成長への転換、バブル経済の展開・崩壊の経済成長率のグラフから、適切にデータを読み取っている。 d:東西冷戦が激しくなるなかで日本が独立を回復した経緯を理解し、その後の５５年体制の政治の動向について、基本的な理解が身についている。	出席状況 定期考査 ワークシート ノートなど提出物

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について◎や○を付けている。